専門学生が水道PR手法プレゼン

機(5) 1−9−1 産・官・学が3者連携で

の啓発に向けた調査検討 社が受託した「水道事業 学校・文化デザイナー学 県城里町、水戸市の専門 及びセミナー企画運営業 層向けのセミナーを実施 院の広告プロモーション 務」によるもので、同学 院と

3者連携による若年 した。国土交通省から同 科地域デザインゼミの 横浜ウォーターは茨城 の基本的事項や経営、歴 ト」と「アウトプット」 ンプットとして水道事業 の2段階で構成した。 イ 4回のセミナーを通じて べき姿」の発信者となっ 学んでもらい、同世代へ てもらうことを目的とし 向けた「水道の将来ある 水道事業の現状や課題を セミナーは「インプッ 学を実施。また、城里町 ウォーター社員による座 の職員が水道事業の仕事 内容を紹介するとともに

3年生17人を対象に、全 史、課題等について横浜

ムも実践的なPR手法を提案

城里町の浄水場見学も

どう伝えるのか」につい きか」「それを同世代に た。アウトプットでは 識の理解をさらに深め 見学を行い、現地での体 験を通じて座学で得た知 同町の石塚浄水場で施設 将来の水道の理想像 実現のために何をすべ

りまとめた。 るPRの具体的手法をと 現し、さらにそれを伝え 認。インプットの内容を 自分の意識の変化を再確 理するとともに、学生が セージを制作物として表 踏まえて同世代へのメッ さきごろ開催した第4

学生デザイナーたちの提 案は、若者ならではのア 業のレクチャーを受けた た。官民双方から水道 ゼンテーションを行っ ターにろ過砂といった浄

討論し、知識や考えを整 てワークショップ形式で イデアに富んでいるだけ た。チーム1は浄水場を でなく、「実際に広報を 践的なものとなった。 行う人々」の目線を反映 させて財源の確保等にも チームに分かれて行われ 切り込んだ具体的かつ実 PR手法の検討は、 込む。 よる「推し活」需要も見 ラクターグッズの展開に 品・機材を擬人化。キャ 水過程で用いられる薬 した化粧品の開発・販売 て発生する余剰分を活用 水需要のギャップによっ チーム2は施設能力と

回セミナーでは、これま での集大成として、学生 道PR手法についてプレ たちが考案した新たな水 と重要性を体感できる。 PAC、フロキュレー ことで浄水処理の仕組み 次亜塩素酸ナトリウムや 井から給水までの各工程 は水の一粒となり、着水 楽しみながら進んでいく に設定された体験項目を イベントを企画。参加者 舞台とした有料の体験型 の水」の付加価値を高め ランド設定により「城里 ション動画等を通じたで ジデザイン、プロモー やロゴマーク、パッケー を提案。キャッチコピー

定し、水道事業の新たな 財源に資するビジネスプ いった具体的な販路を想 税やアンテナショップと た。さらに、ふるさと納

ランを構築している。 として、管路更新時に掘 朽化問題への啓発を目的 チーム3は水道管の老

時期・場所の提案もあっ 集客を見込みやすい開催 暮れの早い季節といった アースデイとの連携や日 灯篭アートとして再生す 穴あけ等の加工を施し、 者が自ら洗浄、錆取り、 る。企画案ではさらに、 環境保護イベントである

けの水道事業普及活動を 町は昨年度から若年層向 フィールドとした。 実施しており、昨年は茨 横浜ウォーターと城里

ヘアップサイクルする体 り出された水道管を灯篭 進とコミュニケーション ムを企画し、ゲームを通 の機会増加を提案した。 じた設備投資への理解促 テーマとしたボードゲー

験型イベントを提案し た水道管の廃材を、参加 た。鉄管や塩ビ管といっ の水道システム全体を 図っていくもので、プレ ゲームは投資によって水 く、水源から蛇口まで を目指す。施設だけでな 道システムの維持管理を 化してきれいな水づくり ルに対処しつつ施設を強 イヤーは発生するトラブ

チーム4は水道事業を 城キリスト教大学と連携 の機会を設けていきた

いる。

ウォータープロジェクト 感じている。今後も同様 らこそ得られた成果だと 理解してPR手法に反映 案であるだけでなく、講 視点とは異なる斬新な提 もに、「若者から若者へ」 果になった。産官学が しており、期待以上の結 義で伝えた内容を適切に の新たなPRのアイデア 層とともに取り組んだか 堂に会して連携し、 を期待したもの。業界の 水道事業の理解促進とと 統括部長の話…若年層の 久保田裕史•横 るところ。今回のセミ 踏まえて双方向型の啓発 要さを実感した。これを 情報発信の双方向性の重 き」との反響があるなど 知る機会がもっとあるべ 取り組んでおり、学生か を得られた。町の水道P 等の取り組みを行ってい も学生向けの啓発事業に 下水道課主幹の話…昨年 え、職員側としても学び PR手法を提案してもら を超えた楽しく魅力的な ナーでも行政の視点や枠 らは「水道事業について イベント「水道カフェ」 加倉井美鈴·城里町上

の使い方まで全て学生が

もらった。企画から時間 生同士でチームを組んで らい、近い思いを持つ学 道への思い」を書いても してそれぞれの持つ「水 1 eドキュメントを活用

主体となって計画してお

したセミナーを開催して

域デザインゼミ講師・坂 文化デザイナー学院地

本裕二氏の話…Goog

業 周 水 並 產 新

間かつ難しい課題設定

り

1カ月という短い時

Rにも生かしていきた

識した。

考えてくれるのだと再認

れば、学生はしっかりと 我々がメッセージを伝え を作り上げてくれた。 だったが素晴らしい提室